

大豆子実の加害害虫をまとめて防除

道総研 十勝農業試験場 研究部 生産環境グループ

1. 成果の概要

大豆子実を加害するカメムシ類被害の防除は、同じく子実を加害するマメシクイガの防除法に準じ、ほ場の半数の株の莢が2～3cmに伸長してから約6日または16日後のいずれかに、シフルトリン乳剤またはA剤を散布すると高い効果が得られます。

2. 成果内容

(1) 効果の高い殺虫剤は？

シフルトリン乳剤またはA剤が、カメムシ類に対する防除効果が高い薬剤です。これらはマメシクイガにも高い効果を示します（表1）。

表1 各種殺虫剤の防除効果

系統名	薬剤 ^{※1}	カメムシ			マメシクイガ		
		試験例数	無処理比	平均 ^{※2}	試験例数	無処理比	平均 ^{※2}
ネオニコチノイド	ジノテ	3	59.5	(×) ^{※3}	0	—	—
	クロチ	3	56.5	(×)	0	—	—
	チアメ	3	85.7	(×)	0	—	—
ピレスロイド	シフル	5	4.4	(◎)	2	5.6	(◎)
	A剤	5	8.4	(◎)	7	2.3	(◎)
	エトフェ	3	23.0	(○)	4	19.3	(○)
有機リン	MEP	3	46.7	(△)	0	—	—
ジアミド	クロラ	—	—	—	2	2.0	(◎)

※1 薬剤名は、以下のとおり省略した(表1,2共通)

ジノテ：ジノテフラン水溶剤SG、クロチ：クロチアニジン水溶剤、
チアメ：チアメトキサム水溶剤SG、MEP：MEP乳剤、PAP：PAP乳剤
シフル：シフルトリン乳剤、エトフェ：エトフェンプロックス乳剤、
クロラ：クロラントラニリプロール水和剤F

※2 無処理比は、数値が低いほど効果が高いことを示す。

※3 ◎：高い効果有り、○：効果有り、△：低い効果有り、×：効果無し



カメムシ成虫



マメシクイガ成虫



大豆のカメムシ類被害粒（上）
被害粒を水浸した時の様子（下）